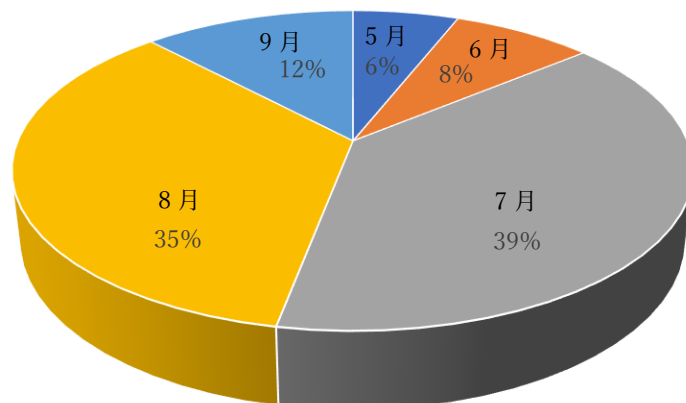


★京丹後市内で発生した熱中症データ

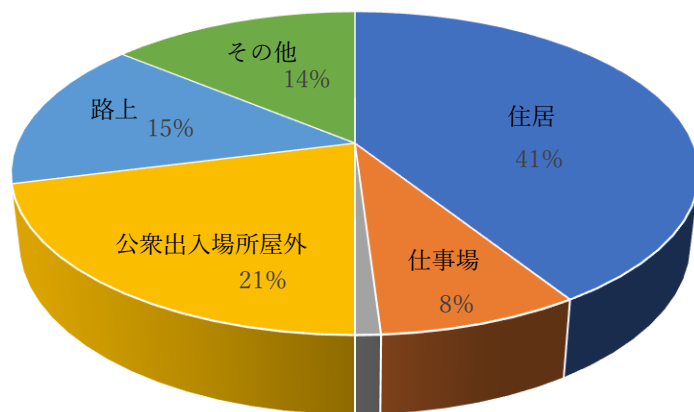
令和5年調査（令和5年5月1日～令和5年10月1日）

【月別搬送割合】



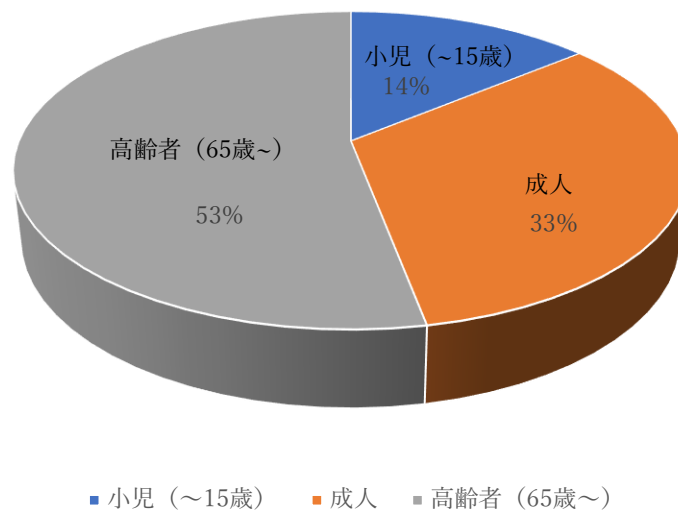
■ 5月 ■ 6月 ■ 7月 ■ 8月 ■ 9月

【発生場所別】

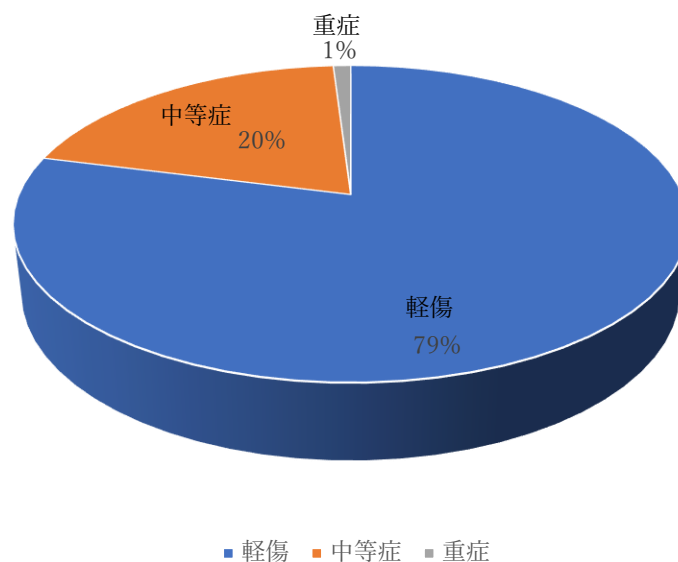


■ 住居 ■ 仕事場 ■ 教育機関 ■ 公衆出入場所屋外 ■ 路上 ■ その他

【年齢区分別】



【確定診断における傷病程度別】



●上記のデータから

- ・令和5年度の熱中症は7月と8月に多く発生しました。
- ・高齢者の割合が半数を占めていますが、小児・成人などの全年齢層でも発生しやすいことが分かります。
- ・発生場所は住居が多く、いづどこでも環境が悪くなると熱中症になってしまうことが分かります。
- ・病院搬送後の傷病程度については、軽症が全体の約8割を占めていますが、応急手当が遅れて症状が悪化したり、医療機関の受診が遅れたりすると、容易に中等症、重症になる可能性もあるので油断は禁物です。